

「護蹄研究会 2025 を終えて」

まず、第25回護蹄研学会（8月23,24日博多）および特別プログラム（19日酪農学園大学、20日別海町）が、それぞれの会場で（博多130名、酪農大90名、別海110名）のご参加をいただき、盛会裏に終了したことを感謝申し上げます（写真：博多会場 24日）。



特に、JRA 弘済会には、海外講師招聘に関わる助成をいただき、宮崎大学佐藤礼一郎教授の推薦のシュタイナー先生（スイス）を招くことができました。仲介いただいた日装各位にもこの場を借りて御礼申し上げます。また、事務局の村上局長、石賀・中村両副会長にはお忙しい中開催に向けてご尽力をいただきました。理事会および総会において、もう2年の会長任期が議決されましたのであと2年間会の運営を司る期間が延長いたします。今後も毎日の症例や事例への取り組みを農家還元、社会還元したいと思っています。

さてここでは会の雰囲気や裏話を中心にお話ししましょう。



シュタイナー先生（写真：S先生）はスイスの酪農と蹄管理について



まずご説明くださいました。スイスの酪農家は5万戸、平均搾乳頭数は30頭、平均乳量7,000 kg弱、すべての農場で放牧を行っています（写真：）。外観からはいかにも小規模で時代遅れのように見えるかもしれませんが、スイ

スは畜産国（特に乳牛・肉牛・羊・豚）であり、特に乳牛の放牧は国のイメージに合致するので、生活を安定させるだけの補助金が政府から出ます。しかも、畜産に関する国策で、8年間で約10億円のプロジェクトがあり、多くの研究が同時に走り、S先生はその中心メンバーとして活躍されました。中には削蹄データ（1,494農場、削蹄師46名、252,000データ）を集結して蹄管理の向上に結び付けるものもありました（実はヨーロッパ各国で同様のことが行われています）。その結果、「蹄の健康が良い農場と悪い農場がはっきりし、悪い農場には獣医師が介入し改善した」その過程も研究の題材になるというわ

けです。また、趾皮膚炎（DD）に関する研究も複数あり、中には麻布大学の堀香織先生も研究に加わり、昨年9月の国際蹄病学会（ベニス）で発表されました（左写真：DDの大家、モルテラー口先生と堀先生）。そして、今回S先生に会うためにお子様連れて博多会場に参加されました（右写真：赤ちゃんの声が聞こえる勉強会）。



S先生の講義の中には少し耳の痛いものもありました（削蹄師の衛生に関するテーマ／獣医師は当たり前）。手袋の上から使い捨てラテックスグラブを着けるべき／蹄刀（ナイフ）は牛ごとに柄までドボンと消毒すべき／グラインダーの持ち手には伸縮包帯などでラップして現場現場で交換すべき／枠場を清潔に洗うには先ず消毒剤を塗布した後で高圧洗浄すべき（生きた菌を飛び散らせない）／病変を拭うときはキッチンペーパーを使い捨てるなどが具体的な衛生に関する予防策です。「削蹄が入るとDDが増える」事例は数年前から欧米で論文になっています。少しでも考慮し、取り入れることでリスクが減るのであれば、それは間違いなく依頼農家へのサービスと言えるでしょう。実は私の一般口演「あるDD多発農場での改善取り組み」の中にも削蹄師の手袋や削蹄場所、獣医の治療場所から病原性トレポネーマの痕跡が検出されたことを報告しました。とにかく今回はS先生のスライドが大量で、全部説明されるお考えだったのですが・・・それを選別して頑張ってまとめてくださった紳士的な姿に感激いたしました（写真：19日酪農大後、新千歳空港フードコートで真剣に調整されているS先生と礼一郎先生、二人を見守る大沼氏）。



今回護蹄研として始めて九州で行いました。そのことに関して、何が行われるのだろうかとか、何かためになることなどあるのだろうかとか、いろいろな不安もあったと思いますが、S先生のほかにも「AI技術の今後」「ランピースキン病について」、一般口演11演題が繰り広げられました。教育講演の一つ「様々な削蹄技術と歩様」（佐藤綾乃酪農大助教）は、「どの方法が良かった／悪かったかを述べるつもりはありません。ただ、この時はこうだったという事実だけを述べます。」と前置きしてから講演されました。この言葉は「科学的に物事を見る、考える」という事を意味しています。実はこのスタンスが護蹄研のモットーです。いかにも我々が扱うテーマは複雑です（何かを良しとすれば何かが悪者になりそうな）が、そのように考えるのではなく、『知らないことを知る』ことと、『知っていることを確認する』ことに使っただければ

と思うのです。そして、何がしか良さげなことを取り入れてくださるきっかけになればと願うばかりです。

★懇親会（写真：カワラカフェ天神での立食パーティー）でも皆さんに交流を持っていただきました。今回九州の削蹄師さんや獣医師さんに参加していただくために博多大会を計画いたしましたが、「なんぼ九州って言われて

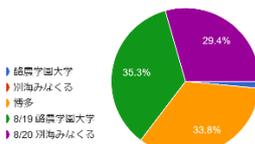


も、鹿児島からは遠か」なるほどです。たしかにご参加の方は各県数名ずつではありましたが、初めてお見えの方が、何らかの良い印象をお持ち帰りになったならそれが次につながるのではないかと思います。またいつか九州でやるときは牛のいる地方を考えましょう。でも来年は多分東京です。

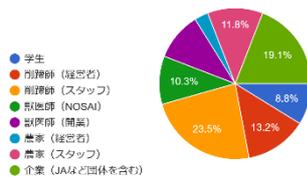
★会場でアンケートを実施したところなかなか興味深いご意見が多数ありましたので、この際継続して実施することにいたしました（とりあえず2025年末まで）。皆さんふるってご参加ください（スマホでQRコードを読み取ってくだされば参加できます）。結果は会の運営方針に反映いたします（個人の特定は致しません／質問などは護蹄研HPで回答いたします）。

以下はアンケート（8/26 現在 68 回答）の中からピックアップしたものをいくつか載せてみます。※あまりに強い言葉は少し柔らかく修正してあります。

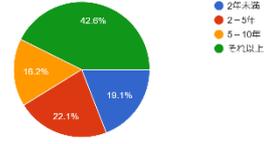
皆様へ質問です： 今日の会場は？
68 件の回答



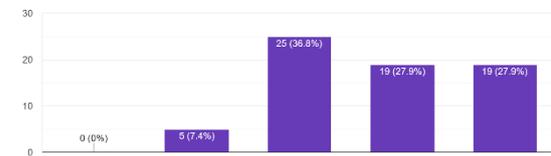
皆様へ質問です： ご職業またはお役目は？
68 件の回答



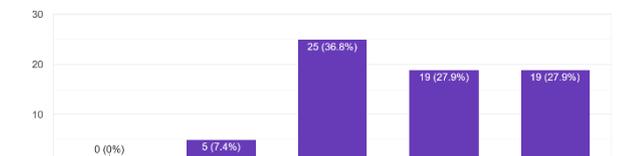
皆様へ質問です： あなたは現在のお仕事で何年選手ですか？
68 件の回答



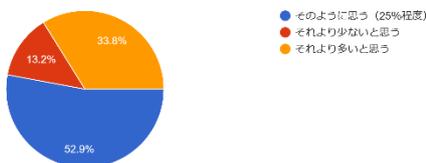
皆様へ質問です： あなたのお仕事の総合的な満足度を教えてください
68 件の回答



皆様へ質問です： あなたのお仕事の総合的な満足度を教えてください
68 件の回答



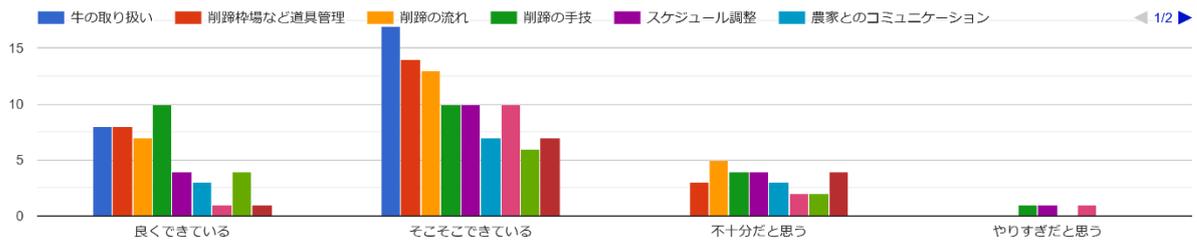
皆様へ質問です： 世界の25%の乳牛が跛行（跛行）しているといわれています。あなたはどのように思いますか？
68 件の回答



削蹄師さんへの質問です： 削蹄で重要だと思われることを教えてください（複数回答可）



削蹄師さんへの質問です：現状はいかかでしょうか（複数回答可）



削蹄師さんへの質問です：

「農家さんが誤解していらっしゃるのではないか」と感じるものがあつたら教えてください。

（例：「ギリギリまで底を薄く削ってほしい」と言われる。）

8 件の回答

グラインダーでの削蹄は、蹄踵を薄く削り過ぎる。

定期削蹄が近いので破行牛を治療しないで待ってる

何でも包帯巻いて欲しいと依頼されたことがあります。前回削蹄の時の包帯付いたままの現場で

削蹄の良し悪しで成績が変わる〔理解力が低いかも〕

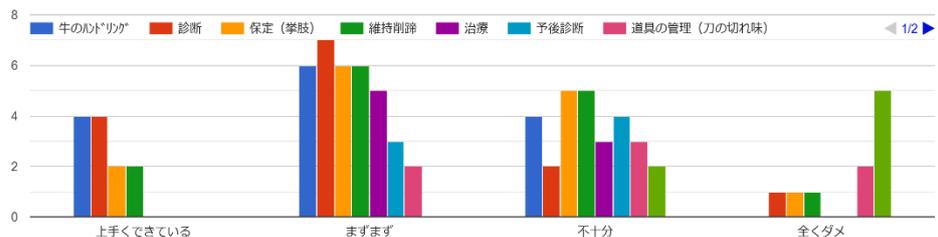
環境にあった合った角度と大きさが大切だと考えます。その中で基本的には生産者より任されていますが、中には生産者の好みの思い違った蹄への希望がある。

血が出てもいいから短く削蹄してくれ

削蹄師の良し悪しがある事 削蹄により違いがちゃんと出る事をご存知ない人多いかもです

獣医師への質問です：あなたの治療技術を自己採点すると？（すべての項目を自己審査してください）

獣医師への質問です：診療所として蹄病の診療回数はどの程度ですか？
14 件の回答



獣医師への質問です：

蹄管理について農家への本音を聞かせてください。

(例 もう少し早めにみせてほしい)

12 件の回答

獣医の治療に重きを置いているため、予防・対策に注力してほしい

早期発見に努めてほしい。

削蹄師に見せてから獣医に診せる流れがあるのですぐに獣医に診せて欲しい

相談でもいいので聞いてほしい

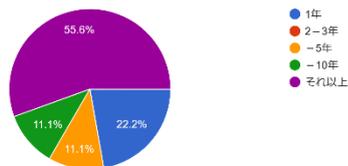
削蹄回数少ない、診療依頼が遅い

もう少し早めにみせてほしい

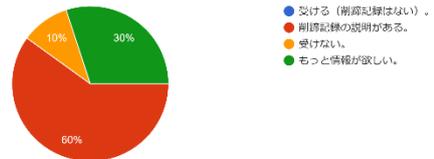
治療や削蹄を自分で対処せずに、外注する農家さんがほとんどだが、それでよいのか。そのために見せるのが遅い。

早期発見、早期求診、蹄病に対する意識向上(乳房炎の様に)

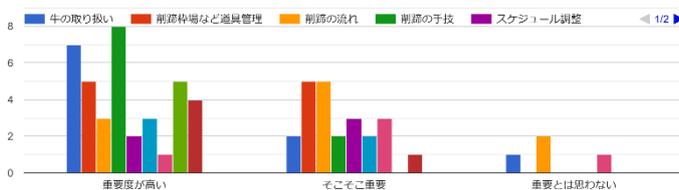
農家さんへの質問です：今の削蹄師さんとの付き合いはどのどのくらいですか？
9件の回答



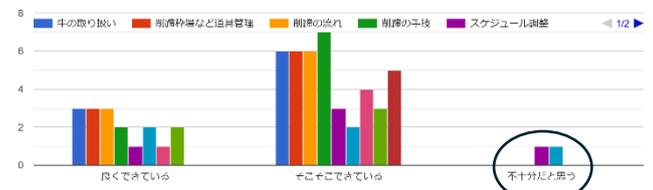
農家さんへの質問です：削蹄師から、説明を受けることがありますか？
10件の回答



農家さんへの質問です：削蹄で重要だと思うことを教えてください(複数回答可)

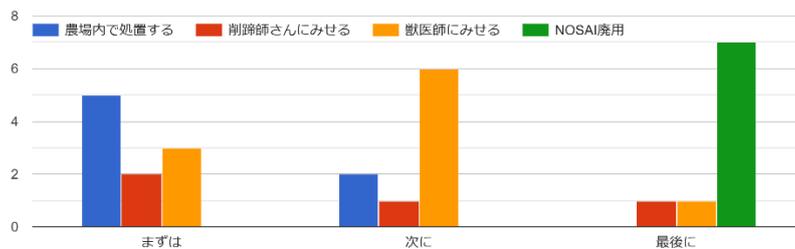


農家さんへの質問です：削蹄師さんの現状はいかがでしょう(複数回答可)



スケジュール調整
コミュニケーション

農家さんへの質問です：蹄病治療が必要な牛はだれが診ますか(順番をお答えください)？



皆様へ質問です：

大学への期待などご意見があったらお聞かせください。

12 件の回答

様々な規模や形態に合わせた、調査をして欲しい。

削蹄 蹄病に関する実習のあるアップデートセミナーの開催

学生と農家が触れ合うプログラムが根室でも欲しい

教授個人の興味関心よりも日本の酪農現場で困っていることを取り上げ、実現可能な提案ができる研究をしてほしい。

研究活動頑張ってください。

学生の頃から、蹄への取り組みがしっかりされているので、これからも安全第一になるとは思いますが、学生への蹄への関心を高めてもらいたいと思います。さらに交流を通して他大学へ広まればと思います。

芯を持ち NOSAI に染まらない獣医を送り出して欲しい

皆様へ質問です：

護蹄研究会へご意見があったらお聞かせください。

17 件の回答

せっかく名札をつけるなら、獣医師削蹄師、農家、など職種をはっきり分かるようにしてみてもどうか。

個人的な興味ですが、馬や人の話も聞いてみたいです。

もっと Steiner 先生のお話が聞きたかったです…。

ぜひ次回も特別プログラムを実施していただきたいです。

時間が押してたのでもう少し話題提供のお話を聞きたかったです！

勉強会を開催してくださりありがとうございました。

web での開催もお願いします。

興味ある話ばかりで楽しく参加できました。もっと参加者、会員が増えるよう SNS 等での告知も必要かと

よりフランクに、大学、削蹄師、獣医が連携を取れる場になってほしい。

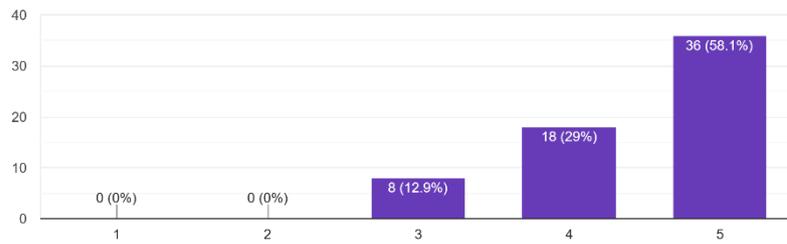
ゲノムに関する講習について、後日動画等で公開頂けるのであれば、閲覧致したい。

今後もこのような講習会をたくさん開催していただけると大変ありがたいです。

ぜひ各地で開催してもらいたいです 今回から近くてすごくよかったです

定期的な勉強会お願いします

皆様へ質問です：今日の講習会はいかがでしたか？
62件の回答



以上ですが、今後も回答者の枠を増やして（会場外削蹄師／会場外獣医師／会場外農家／会場外企業）継続してお考えを聞いてみたいと思いました。皆様も奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。 阿部紀次



護蹄研究會へのアンケート